

児童朝会 校長の話 5月17日

来週の月曜日、5月24日は浅草小学校の開校記念日でお休みです。浅草小学校は明治6年5月24日にでき、148回目のお誕生日になります。その当時は並木学校という名前でした。これまでの148年間には、様々な困難な時代がありました。1番大きな困難は、戦争を乗り越えたことだと思います。

昭和20年3月10日に東京大空襲がありました。アメリカ合衆国の戦闘機が空から爆弾を落としました。夜でしたが、この辺りは、一面火の海になってしまいました。浅草小学校の周りも燃



えていました。人が飛ばされてしまうような強い風が吹き、風のうなる音と燃える音と人の悲鳴が、辺りに響き渡っていたそうです。学校には先生と主事さんが合わせて5人いました。なんとか浅草小学校が燃えないようにと必死に守ったそうです。窓からはどんどん火が入ってきてカーテンに燃え移りました。カーテンを引きちぎって足で踏んで火を消そうとしましたが、靴に火が燃え移りました。カーテンを抱えて外に出て、砂場で砂の中にカーテンをねじこんで火を消しました。それでも窓から火が入ってきます。次にはポンプでプールの水を汲み上げ、3階の床を水浸しにしました。3階から階段を伝わって水が2階に回り、2階の廊下も水浸しになりました。更に階段を伝わって1階に水が流れ、校舎中を水浸しにし



ました。こうして夜通し、学校の先生や主事さん、地域の方たちが校舎を守り、焼けずに残る事ができました。台東区も墨田区も東京23区の周辺は、全て焼け野原になってしまいました。

浅草の写真があります。松屋の建物が写っていますが、5日間燃え続けたといいますから、中は焼けてしまっているのだと思います。浅草小学校だけがぽつんと残っています。人々の決死の努力によって焼けずに残りました。富士小学校、千束小学校、金竜小学校、田原小学校は



燃えてしまったので、この4校と一緒に浅草小学校を使って学校生活を送ったそうです。

資料を調べていたら、浅草小学校の校舎は残りましたが、残念ながらこの空襲によって命を落としてしまった子供たちがいました。合同で慰霊祭が行われた記録が残っています。そこには亡くなった44名の児童の名前が書かれています。(名簿を見せました。)1年生2年生6年生が多いのは、3年生以上は宮城県に集団疎開して逃げていました。6年生は空襲のあった前の日に何人か戻ってきたところだったそうです。浅草に残っていた子供たちが犠牲になってしまったのです。尊い命が奪われてしまいました。

さて、今私たちは、コロナウイルスからの感染症の対策をしての生活が続いています。昨年は3ヶ月間も学校が休校になりました。運動会や学芸会、全校遠足や宿泊行事など、大きな行事ができず、通常通りの学校生活が送れません。コロナウイルス感染症の拡大。これも大きな困難な時代を過ごしていることだと思います。

今までの歴史の中で浅草小学校が大きな困難を、子供たちや先生、地域・保護者の人たちと力を合わせて乗り越えてきたように、私たちも今、みんなで力を合わせればきっと乗り越え、安全で安心、幸せな時代を迎えることができると思います。もう少しの間、みんなでルールを守り、助け合って生活を続けていきましょう。